

# 福岡大学人文学部東アジア地域言語学科学士の朝鮮認識

広瀬 貞三\*

はじめに

日本人の朝鮮（韓国、北朝鮮）認識は重要なテーマであり、これまで多くの研究者によって優れた研究蓄積がある。ただ、これらの研究は主に中世、近世、近代の日本人を対象にしており、その手法は日本人が書いた書物を分析するものである<sup>1)</sup>。戦後における日本人の朝鮮認識については、主に新聞社、世論調査会社が広範囲にアンケート調査を実施、その結果を多角的に分析した報告が多数でている。

こうした日本人を対象とした研究の中でその範囲を限定し、日本人大学生に焦点を絞った研究も多く、生越直樹、

\*福岡大学人文学部教授

林炫情、姜姫正、呉正培、金絃哲、松本一見、尹秀美、南相瓊、金庚芬などの論文がある。これらの研究の主な特徴として、次の三つをあげることができる。第一に、単独、あるいは複数の大学の日本人学生を対象に、アンケート調査を実施している点である。第二に、主に「初習言語」学習者を対象にしている点である。第三に、「初習言語」学習者を朝鮮語学習者、非朝鮮語学習者に大別し、それぞれの朝鮮観を明らかにしている点である。私も一九九二年五月、非常勤講師として朝鮮語を教えていた四大学（専修大学、獨協大学、東京学芸大学、中央大学）で、学生に朝鮮関連の新書を一冊選んで、合計二〇四本の感想文を提出してもらい、学生が対象とした本の分野とその内容を分析したことがある<sup>3</sup>。このように先行研究では、単独、あるいは複数大学の日本人大学生を対象に、アンケート調査を実施し、その結果を分析したものが中心であるといえる。

本稿では日本人学生の朝鮮認識を明らかにする際、三つの新しい視点を提示する。第一に対象を福岡大学人文学部東アジア地域言語学科（以下、L A）の学生に限定している点である。福岡大学は朝鮮半島と距離的に近いため、朝鮮への認識も先行研究で明らかにされた東北大学、金沢大学とは異なった点があると思われる。第二に、学生へのアンケート調査ではなく、ゼミにおける報告の題目を対象とする点である。学生は短時間に報告の題目を決めなければならず、また一定期間その問題を集中的に考え続けることが求められる。いわば、学生の明確な意思の一端が、象徴的に表れるものが報告の題目である。第三に、「初習言語」学習者にとどまらず、二年生、四年生も加えて、その朝鮮観を対象にしている点である。

本稿はこのような問題意識から、私が二〇二〇年前期のL Aのゼミ（一年、二年、四年）で、学生が提出したレジュメの報告題目を考察の対象とする。詳細は後述するが、私は前期に一年生、二年生（韓国コース）、四年生（韓国コース）のゼミを担当した。学生が報告課題として提出したレジュメは、一年生が六六本、二年生が一七本、四年生が一二本、合計九五本である。

本稿はこれらの九五本の報告題目を基本史料として、この分析を行う。考察の対象は、次の二点である。第一に、L Aの学年別の学生がどのような朝鮮認識を持っているかを明らかにする。第二に、学年が上がるにしたがって、学生の朝鮮認識がいかに変化するかである。これらの問題点はL Aにおける専門教育の現状と、今後の課題を展望する上でも意味があるであろう。

なお、報告題目の一部は私がわかりやすくするため、若干変更しているものもある。これは学生の題目自体が内容と一致しない場合があったため、学生の報告時に私から題目の変更を提案し、了解してもらった。

## 一・一年生ゼミ

### （1）全体の傾向

二〇二〇年度のL A一年生は六八名である。これを四クラス（A～Dクラス）に分け、「中国・韓国学入門演習」（一

年ゼミ)をおこなった。私はこの四クラスの内、二クラス(Bクラス、Dクラス)を担当した。これ以外に、間ふさ子氏(中国コース教員)がAクラス、大澤武司氏(中国コース教員)がCクラスを各々担当した。一クラスの学生数は平均一七名程度である。私が担当した学生数はBクラス(水曜日三限)が一五名、Dクラス(木曜日一限)が一八名で、合計三三名である。この中には二年生(一名は未履修者、一名は編入者)も二名含まれている。一年生全体で見ると、六八名の内の三一名(四五・六%)である。三三名の性別は女性が三一名、男性が二名(二年生)である。

例年だと、一年ゼミの課題は三つある。①東アジア(韓国、北朝鮮、中国、台湾、香港、在日など)を対象に、関心のあるテーマで報告することである。事前にレジユメの作り方を教え、授業のたびに学生の報告レジユメを修正しながら、全体のレベルを上げていく。②全体で六班(A〜F)を作り、各班(二〜三名)で東アジアに関する新書を一冊取り上げ、その内容を全員で分担して要約することである。目的は新書の要約ができるようになり、同時に学生間の共同作業をするためである。報告者以外の学生は他班の報告を聞くことで、東アジアに対する知識を広めている。③個人でレポート、論文の書き方に関する文庫か新書を一冊読み、その感想文を書くことである。これはレポート、論文の書き方の初歩を学び、これからレポート、論文を執筆する際の基礎力を身につける。

しかし、二〇二〇年前期は新型コロナウイルスの感染拡大のために、全ての授業は遠隔授業となり、一年ゼミも遠隔授業となった。さらに学生は福岡大学構内に入れず、図書館の本を全く使用できない状況になった。

非常事態であるため、今年は従来の一年ゼミの方式を次のように大幅に変更した。①福岡大学図書館の新聞記事検

索データベースにアクセスして記事を検索し、自分の関心あるテーマで内容をまとめて報告することである。文末には使用した新聞の紙名と年月日を記入するように指示した。一年生が外部から図書館のデータベースにアクセスする場合は事前の登録が必要なので、その方法を教えた。②インターネット上の各種資料を利用して、関心のあるテーマを一つ設定し、調べて報告することにした。できる限り信用できるウェブサイトを利用するように指導した。これも参考文献として、文末に使用したウェブサイトの題目、アドレス、最終確認日を記入するようにした。③レポート、論文の書き方に関する新書、文庫を必ず一冊を書店や古書店で購入し、その感想文を提出するようにした。この部分は従来と同じ方法を踏襲した。

このように一年ゼミの方法を変更したため、前期は一年ゼミ履修学生三三名が一名二回ずつ、合計六六本の報告を行った。この報告の題目を分析することで、LAの一年生が東アジアのどのような地域、またどのような問題に関心を持っているかを明らかにすることができる。一年生は短時間に他学科の科目も含め、次々に報告しなければならなかったため、自分にとって最も身近な報告の題目を設定したものと想定する。私が担当した二クラス（Bクラス、Dクラス）の報告題目を詳細に比較すると、一定の差異がある。しかし、ここではこの差異については言及せず、合計六六本の報告題目全体について分析を行う。

ただ、これには二つの限界がある。第一には、一年生の学生四グループごとに質的な差異があるかもしれないが、私が担当した二クラスにある種の偏りがあった可能性もある。しかし、間ふさ子氏、大澤武司氏が行った一年ゼミは私と

は全く異なった方法を取ったため、その偏りを客観的に検証することはできない。このため、本稿では一年生学生の約半数の学生の傾向を包括的に指摘するにとどめる。

第二には、ゼミ担当の私が韓国コースの教員であるため、これが学生の報告題目設定に一定の影響を与えた可能性を全く排除することはできない。しかし、これも前述の理由と同じく、私が行ったゼミ運営方式を中国コースの教員が行った場合と比較することができない。このため、影響があつた可能性があるかもしれないとするとどめる。

こうした二つの点を前提にした上で、一年生三三名が報告した合計六六本の報告題目を検討する。まず、報告の題目が対象とする地域を見てみる。多い順に並べると、次のようになる。

- 1・朝鮮関連（韓国、北朝鮮、南北関係、在日） 五三本（八〇・三％）
- 2・中国関連（中国、台湾、香港、在日） 一一本（一八・二％）
- 3・東アジア全域 一本（一・五％）

全体の約八〇％は朝鮮関連であり、圧倒的な数を示している。つまり、LAの一年生はこの時点では朝鮮関連への関心がとても強いことがわかる。おそらく福岡大学への入学の動機も、朝鮮関連の勉強をしたと思ったからだろう。

二節で朝鮮関連の題目五三本を分析するので、ここではその他の一三本（中国関連一一本、東アジア全域一本）の題目をみる。東アジア全域を対象にした学生の題目は、「新型コロナウイルスと東アジア」だった。これは新型コロナ

表1・中国関連（中国、台湾、香港、在日）の報告題目

番号	対象	分野	題 目
1	中国	社会	中国の大学入試「高考」
2	中国	社会	中国の一人子政策
3	中国	社会	訪日中国人観光客の爆買い
4	中国	文化（生活）	チャイナドレスの歴史
5	中国	文化（生活）	チャイボーグメイクの日本での流行
6	中国	政治	ウイグル族を苦しめる「一つの中国」
7	台湾	政治	台湾の蔡英文政権の葛藤と称賛
8	台湾	政治	台湾と日本の関係
9	台湾	地理	台湾の観光名物「夜市」の魅力
10	台湾	地理	私がしたい台湾旅行
11	香港	政治	香港に導入される国家安全維持法
12	在日	社会	日本のチャイナタウン

ナウイルスへの各国（韓国、中国、香港）の対応を具体的に述べたものだった。時事問題として、大きな関心を持ったのだろう。

中国関連の報告題目一二本の内訳は、表1である。これから二つの点を指摘する。

まず地域別に見ると、中国が六本（五〇％）、台湾が四本（三三・三％）、香港が一本（八・三％）、在日が一本（八・三％）である。ここでは中国が一番多いものも、台湾への関心もかなり高い。逆に言えば、予想外に一年生にとって中国への関心が低いといえる。中国政府が引き起こしている政治的な諸問題が多いため、一年生にはあまり好意を持たれていないのかもしれない。

続いて、分野別に見てみる。中国は社会が四本、文化が二本、政治が一本である。政治の題目は中国社会が抱える諸問題（大学入試、一人子政策、訪日観光客の爆買い）であり、現実をよく見ている。また、文化の題目は、チャイナドレス、中国式化粧法であり、女性らしい視点である。政治の報告では、ウイグル族弾圧をあげて

いる者がいる。

台湾を対象とするものでは、政治が二本、地理が二本である。政治では新型コロナウイルスを短期間で鎮圧した蔡英文政権への高い評価が見られる。地理の二本は観光であり、一年生が台湾観光に関心が強いことがわかる。

## (2) 朝鮮関連題目の分析

表2は朝鮮関連(韓国、北朝鮮、南北関係、在日)の題目五三本を分野別にまとめたものである。これから次のことがわかる。

第一に、対象別で見ると、韓国が四九本(九二・五%)、北朝鮮が二本(三・八%)、南北関係が一本(一・九%)、在日朝鮮人が一本(一・九%)である。一年生の関心は九〇%以上が韓国にあり、北朝鮮、南北関係、在日朝鮮人はほとんど視野に入っていない。LAの一年生の大部分は韓国を学ぶために、LAに入学しているといえよう。

第二に、韓国関連の四九本を分野別で多い順にみると、文化が一四本(二八・六%)、アイドルが一二本(二四・五%)、社会が八本(一六・三%)、政治が四本(八・二%)、経済が三本(六・一%)、地理が三本(六・一%)、ドラマが二本(四・一%)、その他が二本(四・一%)となる。つまり、文化とアイドルの合計で二六本となり、この二項目で全体の五二・八%を占めている。

最も多い文化は一四本である。このうち一一本は食文化であり、四本は生活文化である。韓国の食文化として、キムチ、チャジャン麺、袋ラーメン、お茶、伝統茶、美酢(健康食品)、マッコリ、焼酎、伝統料理などがあがってい



表 2・朝鮮関連（韓国、北朝鮮、南北、在日）の報告題目

番号	分野	題 目
1	文化（食）	これであなともキムチが好きになる
2	文化（食）	韓国の発酵食品キムチの歴史
3	文化（食）	韓国の料理チャジャンミョン
4	文化（食）	韓国の茶の歴史と伝統茶
5	文化（食）	韓国のお酢美酢の楽しさ
6	文化（食）	韓国の伝統酒マッコリに迫る
7	文化（食）	韓国の焼酎
8	文化（食）	韓国の飲酒文化
9	文化（食）	韓国の袋麺文化
10	文化（食）	韓国のカフェ巡り
11	文化（食）	「チャングムの誓い」から見る伝統料理
12	文化（生活）	韓国式オンドルの過去と現在
13	文化（生活）	韓国の韓服文化と日本の和服文化
14	文化（生活）	韓国の正月「ソルラル」
15	アイドル	韓国の K-POP 文化
16	アイドル	K-POP の歴史と市場
17	アイドル	韓国の自主製作アイドル SEVENTEEN
18	アイドル	韓国の爆発的歌唱グループ MAMAMOO
19	アイドル	韓国の努力型アイドル・イデウィ
20	アイドル	韓国の少女時代の魅力と現在
21	アイドル	韓国のアイドル・ファンミョンの魅力
22	アイドル	韓国の輝く SHINEE
23	アイドル	韓国の 11 年目アイドルー HIGLJOHT の魅力
24	アイドル	韓国の「国潮ブーム」
25	アイドル	韓国のマスター文化とアイドル
26	アイドル	韓国のオーディション番組 PRODUCE101
27	アイドル	日韓の架け橋となる古家正亭
28	社会	韓国の大学入試
29	社会	韓国はなぜ自殺者が多いか
30	社会	韓国人の離婚とその背景
31	社会	韓国における出生率減少の背景
32	社会	韓国の競争社会とその背景
33	社会	韓国の新型コロナウイルス対策
34	社会	韓国人が愛する PC 房
35	社会	韓国のロッテワールド
36	政治	韓国のセマウル運動

番号	分野	題 目
37	政治	なぜ、「共に民主党」は選挙で圧勝したのか
38	政治	韓国の徴兵制度
39	政治	徴用工訴訟問題をめぐる日韓関係の現在
40	経済	韓国の貧困
41	経済	韓国の青年失業問題
42	経済	韓国のキャッシュレス事情
43	地理	濟州島の文化と歴史
44	地理	濟州島とその世界遺産
45	地理	釜山市の観光地海竜宮
46	ドラマ	「冬のソナタ」はなぜヒットしたか
47	ドラマ	韓国ドラマはなぜ人気なのか
48	宗教	韓国キリスト教の布教活動
49	歴史	消えた名護屋城
50	北朝鮮	北朝鮮の南北共同連絡事務所爆破事件
51	北朝鮮	金賢姫と大韓航空機爆破事件の全貌
52	南北関係	朝鮮半島における統一の可能性
53	在日	生野コリアタウンの歴史と現状

る。日本とは異なる食文化に学生は関心を持つのだろう。生活文化では、日本にはないオンドル、韓服、旧正月の風俗があがっている。

ただ注意することは、一年生の場合、実際に韓国を訪問した学生は数名に過ぎず、高校の行事でホームステイや観光を数日間した実体験しかもたない。つまりここで登場する文化の題目は一年生がマスクミヤインターネットを通してイメージする、表象としての韓国の異文化である。

次に多いのは、多彩な音楽グループのアイドルである。題目として、音楽グループ (K-POP、SEVENTEEN、MAMAMOO、SHINEE、HIGHLIGHT、ファンクション、少女時代、国潮) が九本、ファン組織のマスター、アイドル発掘番組の PRODUCE 101、朝鮮語が堪能なMCの古谷正

亭が一本ずつである。一年生にとっては音楽グループのアイドルこそが、韓国を感じる最も身近な存在なのだろう。アイドルの一二本（二四・五％）にドラマの二本（四・一％）を加えれば、一四本（二八・六％）となる。つまりこの二つを韓流としてまとめれば、文化の一四本（二八・六％）と同率一位となる。一年生が近年の韓流の流入・普及・定着に強く惹かれていることがわかる。高校時代までに韓流に惹かれた学生がL Aに入学しているといえるかもしれない。

私は韓国コースの教員なので、アイドルについても一定の関心を持ち、できるだけ関連資料を読むようにしている。ただ、時間的余裕がないので動画はほとんど見ていない。アイドルで学生が報告した各グループは私が知っているものもあれば、まったく知らないものもある。当然ではあるが、私はすでに韓流の流行に完璧に遅れている。これらの多彩なアイドル名からみると、一年生が高校生時代にどれだけインターネットで韓流の影響を強く受けているかが推測できる。また、学生はアイドルの音楽を聴きながらすでに朝鮮語を学び始めており、中には「原文を読んで、すべて理解したい」との思いでL Aに入学したと語る学生もいる。

例年一年生と教員の対面式の時、学生に短い自己紹介をやらせよう。大多数の学生が語るのは大好きなアイドル名であり、学生は「○○（アイドル名）が好きな人がいたら、話かけて下さい」と語る。この事実も上記の数字を裏付けるものである。

第三に、社会が八本ある。これらの題目（大学入試、自殺者、離婚、出生率減少、競争社会、ネットカフェ、ロッ

テワールド）は日本でよく報道される韓国社会の特徴的な一面である。高校生までにこれらの単語や現象に関心を持ち、今回は実際に調査して報告したのである。

第四に、政治が四本ある。最近の選挙結果、微用工訴訟、徴兵制度はインターネット情報やSNSに接しているとから関心を持ったのだろう。一年生は全く新聞を読まず、インターネットやSNSが情報に接する唯一の機会である。現在の問題であるこれらの題目が出てきたことは理解できるが、一年生が生まれる前の一九六〇～七〇年代のセマウル運動が出てきたのには驚いた。

第五に、経済が三本、地理が三本ある。経済の報告題目（貧困、青年失業問題、キャッシュレス事情）は韓国経済の特徴をあげている。地理の三本の中、二本が済州島である。済州島になぜ関心があるのか聞いたところ、一本は好きなアイドルがこの出身だからとのことである。学生とオンラインで話しをすると、アイドルへの関心が根底にあり、そこから関心が多方面（アイドルが軍隊に入営した、アイドルが好きな食べ物、アイドルが通った大学、アイドルのファッション）に拡大していることがよくわかる。

## 二・韓国コース二年生ゼミ

LAでは一年生は一〇月に韓国コースか、中国コースかを志望する「コース分け」を行う。学生の希望を全面的に

尊重し、数の差があってもそのまま受け入れている。ここ数年間、学生数は韓国コースが中国コースより若干多かったが、二〇一九年一〇月にはこれが逆転し、二〇二〇年の二年生は韓国コースが三四名、中国コースが三六名である。

一年生前期で圧倒的多数が朝鮮関連に関心を持つているのに対し、例年「コース分け」ではほぼ同数になるのはいくつかの理由が考えられる。LAの一年生は一年間、朝鮮語を四コマ、中国語を四コマずつ学ぶ。まず、この過程で中国語、中国コースへの新しく強い興味が生じるのである。続いて、実際に朝鮮語を勉強してみた結果、文字や発音についていけず、最終的には当初の希望を断念する学生がいる。さらには、将来を考慮すると、朝鮮語よりも世界で通用可能な多い中国語が就職活動に有利ではないかと判断する学生が出てくる。こうした各種の要因に耐えて残った学生が、韓国コースにやってくる。

韓国コースの二年生学生は半分に分かれて、「韓国学基礎演習」(二年ゼミ)を履修する。二〇二〇年前期は韓国コース学生の二年生三四名を二つに分け、一クラス一七名を私が、二クラス一七名を安藤純子氏が担当した。後期には教員が交代することで、学生は一年間に二名の教員のゼミを受ける。二年ゼミは三年次から始まる本格的なゼミ選択(三年、四年)のための前段階である。このため、二年ゼミ教員は朝鮮関連の幅広い知識を教え、学生が自ら調査し、報告することに習熟することを目的としている。

私は例年二年ゼミでは、次の三つの課題を出している。①個人の研究報告を一回行う。一年ゼミでは参考文献を文

末にまとめて掲載すればよかったが、二年ゼミでは脚注方式とする。厳密に補注をつける訓練をする。②私が指定した新書の中から各班(二〜三名)が一冊を選び、全員で分担して一冊の内容を要約し、評価することである。③レポート・論文の書き方に関する文庫、新書を一冊読み、感想文を提出する。

二〇二〇年前期は新型コロナウイルスのために学生が福岡大学に入構できず、各班で一冊の新書を分担して要約することができなかった。このため、事前に私が朝鮮関連で、良質の新書を指定して一冊ずつ学生の自宅に送り、担当する新書を要約してもらうことにした。学生にとって短時間に新書一冊を全部読み、要約することは不可能なので、いくつかの章を要約するように指示した。③一年生と同様に、レポート、論文の書き方に関する文庫か新書を書店か古書店で一冊買い、その内容の感想文を送付するように指示した。これは例年と同様である。

二〇二〇年前期の二年ゼミは一七名で、女性一六名、男性一名である。学生一七名が行った報告題目をまとめたものが表3である。次の四点が特徴である。

第一に、地域別に見ると、一七本全てが韓国に集中しており、北朝鮮、在日朝鮮人は一本もない。学生はLAでの一年間の大学生活を経た後でも韓国にしか関心を持たず、北朝鮮や在日朝鮮人、あるいは世界中で生活する朝鮮人には全く興味がない。コース名は「韓国コース」であるが、私としては幅広い関心を求めており、その点で残念である。第二に、韓国への関心分野を多い順にみると、文化が八本(四七・一%)、社会が五本(二九・四%)、政治と経済が二本(一一・八%)ずつである。文化は食文化が四本、生活文化が四本である。文化に対する関心の強さの背景には、

表3・2年生（韓国コース）の報告題目

番号	分野	題 目
1	文化（食）	韓国の種類豊富な毎日のおかず
2	文化（食）	韓国の焼肉文化
3	文化（食）	韓国の伝統茶と日本のお茶
4	文化（食）	韓国の飲酒文化
5	文化（生活）	韓国のお風呂事情
6	文化（生活）	韓国の葬儀文化
7	文化（生活）	韓国の礼儀・マナー
8	文化（生活）	韓国の旧正月
9	社会	韓国の就職事情
10	社会	韓国のコンビニエンスストア
11	社会	韓国国民にとってのゲーム
12	社会	韓国のカラオケ事情
13	社会	韓国の教育目標と国民性
14	政治	韓国の死刑制度と死刑囚
15	政治	韓国の住民登録番号とネット社会
16	経済	韓国と日本の物価の違い
17	経済	韓国の賃貸住宅

二年生になるとほとんどの学生が韓国への短期留学、旅行を行っていることが影響しているとみる。二年生が短期滞在者として外部から韓国社会を観察すると、韓国文化の異質性が強く感じられるのだろう。食文化として、毎日のおかず、焼肉、伝統茶、飲酒があがっている。生活文化も同様で、日本とは違うお風呂、葬儀、礼儀、旧正月に関心が集まる。

第三に、社会の五本の表題は韓国を外部から観察したり、実際に体験した中で感じた題目である。前者は就職事情、教育目標であり、後者はコンビニエンスストア、ゲーム、カラオケである。二年生が韓国滞在中にどのような体験をしているかをうかがわせる題目である。

第四に、政治、経済がいずれも二本ずつである。政治の題目（死刑制度、住民登録番号）、経済の題

目（物価、賃貸住宅）は韓国の内実をある程度理解していないと出てこない題目である。LAでの一年間の学習成果がこれらには若干反映されているといえる。

第五に、韓国への関心であつても、現在に全て集中しており、過去や将来（展望）に関するものは一本もない。二年生は現在の韓国を自分の視点で切り取ることはできて、いまだ大きな時間軸、空間軸の中で韓国を位置づけることはできないようである。

### 三・韓国コース四年生ゼミ

韓国コースの二年生は毎年一月に三年次のゼミ教員を志望する。志望書には第三希望教員名まで記入させ、数に大きな差がある場合、第二希望の範囲内で学生を移動させる。韓国コース教員は四名であり、安藤純子氏（日韓関係、日朝関係）、松崎真日氏（韓国語学、韓国語教育）、柳忠熙氏（文学、思想史）、広瀬（歴史）と専門がわかる。ただ後述するように、教員の専門性だけで学生が三年ゼミ教員を選定しているとはいえず、教員との相性や親密度など、かなり流動性がある。LAでは三年ゼミ、四年ゼミは同一教員となり、途中でのゼミ教員の変更は原則として認めない。

今年の広瀬ゼミには三年生がない。これは私が二〇二一年三月末で定年退職するので、学生の募集を行わなかつ



た。その理由は、広瀬ゼミで三年生として一年間だけ在籍しても、再度四年生でゼミを変更しなければならぬためである。

現在の四年生は一二名で、全員が女性である。一二名の内訳は、在校組（三年次に福岡大学に在籍）が七名、留学組（三年次は韓国で一年間留学）が五名である。この二グループには朝鮮語の習熟度と朝鮮関連理解度では大きな差がある。

これまで広瀬ゼミでは、史料を読む年度、論文（日本語、朝鮮語）を読む年度を一年おきにおこなってきた。今年の四年ゼミは史料を読む年度だった。大きな課題は二つあり、史料の講読と個人報告である。

第一の課題は史料講読である。例年だと私が指定したリストの中から図書館の蔵書を一冊ずつ選んでもらい、その内容を要約し、史料批判をってもらうようにしていた。しかし、前期は新型コロナウイルスのために、それが不可能だった。このため私が四月に朝鮮近代史（一八六〇年代～一九四五年）の一次史料（主に朝鮮人の著書で、平凡社の『東洋文庫』を学生個人に一冊ずつ送付し、その史料を要約し、史料批判を行ってもらうことにした。

第二の課題は学生の個人報告である。これは近代史に限定せず、朝鮮（韓国、北朝鮮、南北関係、在日、その他）に関するものなら何でもよいとしている。今回は一二名の学生がいるので、一二本の報告が集まった。これらの報告題目は、表4の通りである。ただ、これも前述した理由と同様に、韓国コース四年生三一名の内の一二名（二八・七％）の報告題目である。広瀬ゼミとしては他の教員のゼミに比べて一定の偏りがあるだろう。つまり、直ち

表 4・4 年生（韓国コース）の報告題目

番号	分野	表 題
1	社会	韓国の幼児教育
2	社会	韓国の就職活動の現状
3	社会	韓国の日本語学習者－規模と特徴
4	政治	韓国政府のコロナ・ウイルス対策
5	政治	韓国の国民請願制度
6	経済	韓国のコンテンツ産業の現状
7	経済	韓国コスメ産業のマーケティング戦略
8	ドラマ	人気がある Netflix 内の韓国コンテンツ
9	ドラマ	韓国と日本のドラマ比較
10	情報	スマートフォンが韓国社会に与える影響
11	歴史	開化派と甲申政変
12	文化（食）	韓国の出前文化

に韓国コース四年生全体の傾向を反映するものではない。このような前提で、表 4 を見ていく。特徴として、次の四つをあげることができる。

第一に、韓国コース二年生の報告題目でも指摘したが、一二本が全て韓国を対象にしている点である。北朝鮮、在日朝鮮人、世界中に存在する朝鮮人に関するものが一本もない。学生は四年生の時点でも、基本的に韓国にしか興味を持っていない。

第二に、報告題目を見ると社会が三本（二五％）、政治、経済、ドラマが二本（一六・七％）ずつで、情報、歴史、文化が一本（八・三％）ずつになっている点である。これは四年生の関心が特定の分野に集中するのではなく、個人の個性と問題意識がかなり多様化していることがわかる。それだけゼミの報告では自分なりに韓国の諸相を狭く、深く掘り下げているといえる。

第三に、社会が三本、政治、経済が二本ずつとなり、合計五八・三％になる。これは資本主義国である韓国を多方面から分

析できるようになったといえる。特に報告題目に「産業」がつくものが二本あり、「人、モノ、金、情報」の流れとそ  
の集積の一端がとらえられている。

第四に、韓国への関心であっても、一三本の中、一二本は現在に全て集中しており、過去の歴史は一本だけであ  
る。この一本だけが、本来の広瀬ゼミらしさといえる。

第五に、報告題目を在校組と留学組の違いから見てみる。一言ではいえないが、留学組が報告した題目は、国民請  
願制度、コンテンツ産業、スマートフォン等、韓国を深く見つけている題目が多い。一年間韓国に留学すれば、衣  
食住の生活や基本的な会話は当たり前のことになり、より根源的な問題意識を持つようになるのだろう。

#### 四・学年ごとの報告題目変化の特徴

これまでL Aの一年生、二年生（韓国コース）、四年生（韓国コース）の報告題目の特徴を述べた。ここでは学生  
の学年が上がることによって、学生の朝鮮認識にどのような変化が現れるのかを見てみよう。これも何回も前述した  
ように、明確に断定できる内容ではなく、一つの傾向を指し示す程度であることを断っておく。

まず、一年生から二年生（韓国コース）への上昇である。一年生の朝鮮関連の報告は五三本であり、対象別で見  
ると、韓国が四九本（九二・五％）、北朝鮮が二本（三・八％）、南北関係が一本（一・九％）、在日朝鮮人が一本（一・九％）

だった。また、これを分野別でみると、文化が四本（二八・六％）、アイドルが二本（二四・五％）、社会が八本（一六・三％）、政治が四本（八・二％）、経済が三本（六・一％）、地理が三本（六・一％）、ドラマが二本（四・一％）、その他が二本（四・一％）となる。

これに対し、二年生（韓国コース）の報告題目は、一年生の報告題目と比較して大きな違いがある。

第一に、一年ゼミでは韓国関連の二本（二四・五％）がアイドルを報告の対象にしていたが、これに関する報告が一本もない点である。ただ、留意することは二年生になるとアイドルに関する関心が急になくなったわけではない。逆に二年生のアイドルへの関心はより深まっており、この間学生は福岡市にとどまらず、大阪府、東京都、ソウル市、釜山市にまでアイドルのコンサートに行っており、関心の強さは維持されており、場合によってはより大きくなっている。しかし、二年生になるとアイドルへの関心はあくまでも「私事」であり、学生が「ゼミで報告する内容ではない」と判断し、一定の自制が働いているとみられる。

第二に、文化の報告題目が八本（四七・一％）であることだ。一年生の文化が四本（二八・六％）なのに比べると一八・五ポイントも高い。より文化への関心が高まったといえる。前述したように二年生は全員が一年次に韓国へ短期留学や観光で訪問しているため、文化への関心は実体験がその背景にある。このため、報告の内容はより具体的であり、詳細である。報告題目として、毎日のおかず、飲酒文化、お風呂事情、葬儀文化、礼儀などは、一年生の報告題目には見られない項目である。

第三に、社会の報告題目が五本（二九・四％）であることだ。一年生は社会の報告題目は八本（一六・三％）なのに對して、一三・一ポイントも高い。二年生の報告題目は、就職事情、教育目標、コンビニエンスストア、ゲーム、カラオケである。一年生の社会に関する報告題目は多様であるが、日本のマスコミやインターネットが伝える表面的な内容にとどまっているのに對し、二年生の報告内容はより具体的で、詳細である。

最後に二年生（韓国コース）の報告題目と、四年生（韓国コース）の報告題目を比較してみよう。ここでは三年生（韓国コース）の報告題目がないため二年間の差があり、比較検討をするに多少無理がある。また、この比較には、対象学生の数と質によって若干の限界がある。その理由は二年生が韓国コース全員の半分である一七名なのに對し、四年生はゼミ教員選択を行った後の一二名（全体の三八・七％）であるためだ。ただ、私のゼミは本来歴史を主とするものでありながら、報告一二本のうちでこれに該当する報告題目は一本だけである。これ以外は私の専門以外の領域である。つまり、広瀬ゼミの四年生の報告題目は他の韓国コース教員三名（安藤純子氏、松崎真日氏、柳忠熙氏）のゼミ学生と、韓国に関する認識面では共通する部分かなり大きいのではないかと推測する。

二年生一七名の韓国への関心分野を多い順にみると、文化が八本（四七・一％）、社会が五本（二九・四％）、政治が二本（一一・八％）、経済が二本（一一・八％）である。これに對し、四年生一二名の韓国への関心分野を多い順にみると、社会が三本（二五％）、政治、経済、ドラマが二本（一六・七％）ずつで、情報、歴史、文化が一本（八・三％）ずつになっている。この両者を比較すると、次のような違いがある。

第一に、四年生では文化への関心が大きく低下している点である。二年生が四七・二%なのに対し、四年生は八・三%と、三八・八ポイントも低下している。四年生になると韓国生活にも習熟し（五名の学生は一年間韓国に留学した）、当然のこととして受け入れるようになる。この時点は異文化への違和感が一時的になくなる段階である。このため報告題目として取り上げる積極的な必要がなくなるのだろう。

第二に、社会、政治、経済への関心がより強まっている。二年生では各々一一・八%なのに対し、四年生は社会が二五%、政治と経済が各々一六・七%となっている。四年生は二年生に比べて、社会が二三・二%、政治と経済が各々四・九ポイント高くなっている。四年生のこれら分野の報告題目には、幼児教育、日本語学習者、国民請願制度、コンテンツ産業、コスメ産業と、二年生の報告にはないものが新たに登場している。前述したように、四年生の報告題目には、資本主義国であり、先進国の韓国の断面を切り取った報告題目が多くみられる。

第三に、二年生の報告題目は文化が四七・二%、社会が二九・四%と、突出した分野が見られたのに対し、四年生の報告題目は社会が二五%、政治と経済が各々一一・八%と均衡している点である。四年生になると韓国を見る視点が複雑化、多様化し、他者にはない、自分なりの問題意識が持てるようになったといえるだろう。

## おわりに

以上、述べたことを要約すれば、次の通りである。

本稿では日本人学生の朝鮮関連（韓国、北朝鮮、南北関係、在日）認識を明らかにすることを目的とした。先行研究では、単独、あるいは複数大学の学生を調査対象とし、アンケート調査を実施することが中心だった。ここでは新しい視点を二つ指摘した。まず、対象の学生を福岡大学人文学部東アジア地域学科（L A）の学生に限定した。続いて、アンケート調査ではなく、ゼミにおける報告題目を分析の対象とした。

史料は私が二〇二〇年前期、L Aのゼミ（一年、二年、四年）で学生が提出し報告題目である。学生が報告したレジュメは一年生が六六本（三三名）、二年生（韓国コース）が一七本（一七名）、四年生（韓国コース）が二本（二名）、合計九五本である。学年の学生全体に占める割合は、一年生（六八名）が四八・五％、二年（三四名）が五〇％、四年生（三一名）が三八・七％にあたる。分析の結果はL Aの学生全体数の約四六％程度といえる。まず、学生ごとの学生の報告題目を分析した。続いて、一年生と二年生、二年生と四年生の報告題目を比較検討した、

一年生の報告題目を分析すると、朝鮮関連が五三本（八〇・三％）、中国関連が二本（一八・二％）、東アジア全域が一本（一・五％）である。約八〇％が朝鮮関連に強い関心を持っている。朝鮮関連五三本を対象別で見ると、韓国が四九本（九二・五％）、北朝鮮が二本（三・八％）、南北関係が一本（二・九％）である。朝鮮関連の九〇％以上が韓

国と圧倒的である。韓国関連の四九本を分野別で多い順にみると、文化が一本（二八・六％）、アイドルが二本（二四・五％）、社会が八本（一六・三％）、政治が四本（八・二％）となる。文化とアイドルを合わせると、三六本（五三・一％）と過半数を超える。

二年生の報告題目を地域別に見ると、一七本全てが韓国である。韓国への関心分野を多い順にみると、文化が八本（四七・一％）、社会が五本（二九・四％）、政治が二本（一一・八％）、経済が二本（一一・八％）である。文化の高さの背景には学生のほとんどが韓国への短期留学、旅行を行っていることが影響しているとみる。短期滞在者として外部から韓国社会を観察すると、韓国文化の異質を強く感じるのだろう。

四年生の報告題目を地域別に見ると、一二本全てが韓国である。報告題目を見ると、社会が三本（二五％）、政治、経済、ドラマが二本ずつ（各々一六・七％）で、情報、歴史、文化が一本ずつ（各々八・三％）になっている。これは四年生の関心が特定の分野に集中するのではなく、個人の個性と問題意識がかなり多様化していることがわかる。それだけ報告時には自分なりに韓国の諸相を狭く、深く掘り下げているといえる。

一年生と二年生の報告題目を比較する。まず一年生では一二本（二四・五％）のアイドルが二年生では一本もなくなる。アイドルへの関心は維持、強化しているものの、大学での報告は「私事」として一定の自制が働いているとみる。また、文化は一年生で二八・六％だったものが二年生では四七・一％と、一八・五ポイントも上昇している。また、社会が一年生の一六・三％から二九・四％に一三・一ポイント上昇している。これらの理由は二年生が韓国への短期留



学や旅行を行っているため、この実体験が背景にあるとみる。

最後に、二年生と四年生の報告題目を比較する。二年生の報告題目は文化が四七・一%、社会が二九・四%、政治と経済が各々一一・八%と、文化、社会が中心である。これに対して、四年生の報告題目は、社会が二五%、政治、経済、ドラマが各々一六・七%となっている。文化が四七・一%から八・三%へと三八・八ポイントも低下している。これは韓国訪問の回数が増え、滞在期間が長期化したため、異文化としての違和感がなくなったためだろう。続いて、特定の分野への集中がなく、韓国を見る視点が複雑化、多角化している。

これらを要約すれば、L A学生の関心は圧倒的に韓国である。主たる分野は、一年生が文化、アイドル、社会であり、学習が進むにつれて、二年生（韓国コース）は文化、社会となり、四年生（韓国コース）は社会、政治、経済へと変化している。このような、大きな傾向があるといえる。

- 1 ここでは主な単行本だけをあげる。旗田巍『日本人の朝鮮観』（勁草書房、一九六九年）、呉林俊『日本人の朝鮮像』（合同出版、一九七三年）、中塚明『近代日本の朝鮮認識』（研文出版、一九九三年）、池内敏『唐人殺し』の世界―中世民衆の朝鮮認識』（臨川書店、一九九三年）、鄭大均『韓国のイメージ―戦後日本人の隣国観』（中央公論社、一九九五年）、金光哲『中近世における朝鮮観の創出』（校倉書房、一九九六年）、南富鎮『近代日本と朝鮮人像の形成』（勉誠出版、二〇〇二年）、三谷憲正『オンド

ルと畳の国―近代日本の〈朝鮮観〉(思文閣出版、二〇〇三年)、琴秉洞『日本人の朝鮮観―その光と影』(明石書房、二〇〇六年)、鄭大均『韓国のイメージ―戦後日本人の隣国観(増補版)』(中央公論社、二〇一〇年)、高崎宗司『妄言』の原形―戦後日本人の朝鮮観(定本)』(木犀社、二〇一四年)、小倉和夫『日本人の朝鮮観』(日本経済新聞出版、二〇一六年)、池内敏『日本人の朝鮮観はいかにして形成されたか』(講談社、二〇一七年)。

## 2 生越直樹「韓国に対するイメージ形成と韓国語学習」『言語・情報・テキスト』一三卷一号(二〇〇六年二月)二七―四一頁、

林炫情・姜姫正「韓国語及び韓国文化学習者の意識に関する調査研究」『人間環境学研究』五卷二号(二〇〇七年二月)一七―

三一頁、呉正培・金絃哲「韓国語学習者の韓国イメージに見られる特徴―東北大学における学習者と非学習者の比較」『東北大学

学高等教育開発推進センター紀要』四号(二〇〇九年三月)五七―六八頁、呉正培「日本人大学生の韓国人に対するイメージ

の内容分析」『東北亜文化研究』三五号(二〇一三年六月)三〇三―三一七頁、呉正培・松本一見「日本人大学生の韓国イメージ

に関する質的研究」『言語科学論集』一七号(二〇一三年二月)五九―七二頁、尹秀美・南相璽「日本人の韓国及び韓国人

に関する意識―金沢大学学生の「初習言語」学習者の比較を通して」『言語文化論叢』一八号(二〇一四年三月)一五五―

一八五頁、尹秀美・南相璽「日本人の韓国に対するイメージに関する調査研究―金沢大学学生の「初習言語」学習者間の比較

を通して(その2)」『言語文化論叢』一九号(二〇一五年三月)一六九―一八五頁、尹秀美・南相璽「日本人の韓国に対する

イメージに関する調査研究―金沢大学学生の「初習言語」学習者間の比較を通して(その3)」『言語文化論叢』二〇号(二〇一六

年三月)一一五―一四〇頁、金庚芬「日本の大学生の韓国、韓国人、韓国語に対する好感度―韓国語学習者・非学習者別に」

『明星大学研究紀要―人文学』五三号（二〇一七年三月）一七～二六頁、生越直樹「韓国語学習と韓国に対するイメージ形成の  
関係―日本の大学生学習者へのアンケート調査を通して見た現状と変化」『言語・情報・テキスト』二六号（二〇一九年十二月）  
二七～四〇頁。

3 広瀬貞三「互いを見つめる視線―日本と韓国」『私学公論』一九〇号（一九九三年一月）一六～二二頁。